

萌え出する時が
生きるもの全てに
平かにわたる

その約束は
山が山とあるために
鳥が鳥として飛ぶために
守られている
ひとつひとつ
のおかげ

人は人としてあるために
争いを解く金建を手に入れよう
また武器を捨て
対話という金建を

と生きるものであり続けるために



やませみ

てんらんざん とつすやま
天覧山・多峯主山の自然を守る会 会報

- もくじ
- 報告／県による「景観間伐」に提案をしました。
 - 天覧山・多峯主山の四季
 - 東やつ・ホトケドジョウの里だより
 - リレーエッセイ／自然と共に生きる
「ヘビが教えてくれたこと」
 - 日よう日ふるさと散歩のおしらせ
 - 編集後記

FROM

編集後記

EDITOR

去る一月二六日
埼玉NPOセンター
が企画・実施す

る「埼玉NPOフォーラム二〇〇三」というイベントが浦和でありました。「NPOと行政の協働による市民参加のまちづくり」をテーマにした全体会や「NPO基礎講座」などの分科会があり、三〇〇人以上の参加者があつたそうです。

この会場には、県内各地で活躍する様々な団体の活動紹介コーナーもあり、守る会も展示物を作成して参加してきました。また、各団体が発行する広報誌を対象としたコンクールにも参加。これは、展示された広報誌に対して一番多くの票を集めたものが優勝、というものでしたが、この「やませみ」が見事優勝したのです！

後日、埼玉NPOセンターへ所用があり、電話を入れたときのこと「あ、『やませみ』の会の方ですね。」といわれたのです。きつとこの「やませみ」が、守る会の「顔」としてこれからも広く活躍していくですね。

守る会 会員 遠藤夏緒

日よう日ふるさと散歩

当会では、天覧山周辺の自然に親しんでいただくために毎月「ふるさと散歩」を開催しています。お気軽にご参加下さい。

◆4月13日(日)

山根で彩られた山道を行く巻

◆5月25日(日)

豊稜折願！やつ田の田植えの巻

○集合 能仁寺山門前 午前九時半

○持ち物 お弁当・飲み物

○動きやすい服装でおいでください。

◆6月30日(月)

ほーほーほーたる来いの巻

○集合 能仁寺山門前 午後七時

夜の水辺です。長袖長ズボンに、できれば

長靴でおいでください。

各回とも参加費は保険料

一〇〇円

共催 はんろう景観トラスト

(財) 埼玉県生態系保護協会

飯能名栗支部

詳しくは編集局までどうぞ。



やませみ35号

二〇〇三年三月 六日発行

- 編集・発行 天覧山・多峯主山の自然を守る会
- 事務局／浅野正敏 0429(74) 1691
- 埼玉県飯能市柳町18-17
- 申し込み用紙・やませみは左記にあります。
- 谷口眼科・鯉沼堂・Cafe裏

一九九五年一月、西武鉄道による巨大団地開発の計画が出されて以来「天覧山・多峯主山の自然を守る会」は、この地の自然をいつまでもという思いで、様々な活動を続けてきました。どうぞあなたも会員になって活動を支えてください。

◆年会費

一般会員……………一〇〇〇円

ファミリー会員……………三〇〇〇円

賛助会員……………一〇〇〇円

協力会員……………無料

◆会費・カンパ送り先

郵便振替口座

天覧山・多峯主山の自然を守る会

00580・9・16342

会員も募集しています。

「やませみ」へのご意見をお寄せ下さい。投稿もお待ちしています。
URL=<http://tenranzan.room.ne.jp> e-mail=tenranzan@room.ne.jp

報告

埼玉県による『景観間伐』に対して

動植物への被害を最小限に防ぐために
提言を行いました。



間伐の終わった山林。伐採した木が放置されている。

この間伐の目的は？ 山の立場で考えたい

天覧山・多摩主山周辺の山林で、埼玉県による緊急雇用対策として、景観間伐が実施されることになった。景観間伐とは耳慣れない言葉であるが、道際に生い茂る木々を間伐して、すっきりとした景観にするためのものらしい。関係各所に、実施時期やその方法、範囲等に関し問い合わせた結果、伐採予定地域内には、希少動植物が生息している場所と重複している地域が多数あることが判明した。無節操な伐採によって、それらの動植物の生息環境が著しく破壊されはしまいかという危惧もあり、以下の提言を川越農林振興センターに要望した。

①間伐に際しては、希少野生生物の保護に、細心の注意を払うこと。②シイ、カシ、タブなどの将来地域の

森林を構成する常緑高木樹林樹種やウツギ、ヤマツツジなどの花木類などは残しておくこと。③伐採した後の間伐材の林外への運び出しの実施などである。景観間伐の実施前に当会では、常緑高木、花木類には、一本一本に蛍光テープを巻き付けるなどして、間伐の際に残しておくべき木々や範囲を指定した。また、当会と西川木楽会とが共同で、間伐の際に注意すべき点などに関する現地視察を含む勉強会を、間伐の伐採施工者に対して行った。

そして間伐へ…
幼樹は残されました。

上記の準備を整えて、実際に昨年の一二月から今年の一月末の間、景観間伐が実施されたが、当初の間伐予定範囲は、開発予定地域を除くなど、伐採範囲の大幅な変更がなされ、希少野生生物の生息地域に間伐はなされないこ

とになった。また、テープングを施した花木類や常緑高木類の幼樹などは、刈り残され、おおむね当会の要望が取り入れられた結果となった。

里山を育む手入れを

ただし、問題点も少なくない。まず、今回行われた間伐は、緊急雇用対策による景観間伐ということもあり、ハイキング道の沿道を中心に行われ、さらに伐採率が二五％程度という低いもので、本質的な里山保全のための環境整備には不十分なものであること。伐採後の間伐材が、伐採地に放置されたままになっている点である。

二月二三日、当会と西川木楽会とで現地の視察を行った。今後引き続き、この地域の里山の保全に関する具体的な方策や間伐材の利用について話し合っていく予定である。

守る会会員 丸山隆

東やつ・ホトケドジョウの里だより

守る会会員 早瀬成憲

天覧山の東を流れる諏訪沢上流の東やつの春は、ヤマアカガエルの産卵で始まります。薄氷の張る沢や田んぼの水たまりにゼリー状の黒い固まりが、あふれる程に沈んでいるのを見つけては、いつも驚かされます。二月、三月と産卵はつづき、やがて黒く小さなオタマジャクシの群となる。そして、シュレーゲルアオガエルの泡状の卵が畦などに懸かり、ザリガニが土の中より出てくる。ホトケドジョウやいろいろなヤゴが温かくなった水底で動き回り、ミズスマシが水面を走り回る頃には、春も本番となるのです。

*文中、谷津を平仮名と漢字両方で表記していますが、これは、東やつが平仮名の「やつ」で親しまれているためであり、意味は同じです。

この東やつの休耕田を地主さんのご好意でお借りして、ため池や田んぼ、広場などを作り始めて五年目になり、お米作りも三年目を迎えました。
〔稲作の作業計画〕
冬季…野焼き・田起こし等。
四月…自宅にて種籾の用意、発芽作業。
パレットにて苗作り。
五月…パレットを田に運び、苗の育成。
代掻き。田植え。
六月…田の草取り。畦の草刈り。
(以上、夏までの田んぼの作業予定。)
稲の品種はイセヒカリ。手作業、無農薬、無肥料で育てています。苗が大きくなる頃には、田んぼ一面にヤゴが這

い回り、ドジョウが泳ぎ回る。里山の自然の中では、生き物が季節と共に湧き出るように発生し、消えてゆきます。特にこの谷津には、ホトケドジョウがたくさんいるのです。
そして、梅雨の終わり頃の、夜の谷津にはホタルが現れて、里山の谷間で夢のような光と闇の世界を繰り広げてくれるのです。
四季折々、朝な夕なに、この東やつをはじめ、天覧山・多峰主山の谷津、湿地に足をのぼして、そこに現れる虫やへびや鳥や動物たち、花や植物との交流を、多くの友人と今年も楽しんでゆきたいと思っています。

投稿／篠崎真実

天覧山・多峰主山の四季

自然観察指導員 太田和夫



四季を通じて、森が最も華やかに見えるのは春と秋だ。春の華やかさは、眠りから覚めたようなくすんだ色合いに始まり、やがて瑞々(みずみず)しくはしゃいだ色合いに変化してゆく。一方秋の華やかさは、活力にあふれた夏を惜しむかのように、重厚な緑からやがて赤や黄色、そしてオレンジへと燃え尽きていく色合いだ。私は、秋の成熟しきった華やかさも嫌いではないが、一口に新緑といっても樹ごとに表情の違う春の雑木林が大好きだ。



ネコヤナギ

ネコヤナギ この山で五種類あるヤナギの内一つ。白い毛に覆われた楕円形の穂で、春の訪れを知らせる。本郷入りの中ほどで数本見られる。
ヤブツバキ 春先に咲く深紅の花は、冬景色の落葉樹林でひときわ鮮やかである。天覧山の西斜面に多い。多峰主山にも沢山あったが、間伐で切られてしまった。
ヤマザクラ 山の木々が一斉に芽吹く頃、淡いピンクの花を枝先いっぱい



ヤマザクラ



春霞 畑の向こうに 銀コナラ

ふつう五月上旬の暖かい日を「初夏の陽気」と呼ぶが、植物にとつての春と夏の境はもう少し遅い。天覧山・多峰主山では三月下旬にはヤマザクラが咲きはじめる。この頃コナラやイヌシデなどの落葉樹の芽もほころび、枝が伸び始める。そして、一日と山々は緑を濃くしていき、五月一〇日頃までにはほとんどの樹木が枝の伸長を一旦止め、安定した緑葉期に入る。植物にとつての春と夏の境は枝の伸長が止まった時で、枝が伸び続けている間は「春」。一旦枝の伸びが止まり、先端の葉が開ききると「夏」を迎えることになる。もともと、ムクノキやエノキのように梅雨入り頃まで連続して枝を伸ばし、次々と葉を広げていく順次開葉型の樹木もあるし、コナラのように、一旦は枝の伸長を止め枝先に冬芽をつくるものの、梅雨明け前には一部の枝が再び伸び出す「土用伸び」という現象もあるので注意が必要だ。
ヤマツツジ 四月から五月にかけて、



コナラ



山に静寂が訪れるのが冬だ。春や秋はハイカーの鈴の音や、遠足の児童の歓声で賑やかだし、夏はむせかえる緑に圧倒され、素肌をねらうヤブ蚊の羽音に気をとられる。この冬は例年になく雪の降る日が多かったが、青空をバックにした里山の雪景色ほど美しく、はかないものはない。



秋は山から下りてくる。アキアカネが田んぼを群れ飛ぶ九月下旬、アルプスの稜線を覆っていた秋の気配は、三〇〇〇mの標高差を一月あまり下り、十一月上旬には里山を訪れる。

アラカシなど 常緑樹の芽吹きは落葉樹よりも遅い。常緑といっても葉が落ちないわけではなく、芽吹きから一ヶ月ほど経って古い葉が落ちる。桂岩の 棚で思案の 羅漢像

アセビ 尾根すじの落葉樹林で見られる。開花は三月になるが、つぼみは冬の間に枝先で春を待ち続ける。伸び出した新芽は、赤みを帯びて美しい。
スギとヒノキ 冬は、遠くからスギとヒノキを見分ける適期だ。ヒノキが夏と同じ濃緑に対し、スギは赤茶に変色するからだ。

山道に 白い足跡 霜柱

リレーエッセイ 自然と共に生きる



それは初夏の午後のこと。はげしい夕立の通り過ぎた後でした。

「おばちゃん、おばちゃん」同じマンションに住む子供たちが私を呼びに来ました。こんな時、子供たちの用事はだいたい決まっています。誰かケガをすれば隣の棟の元看護婦さんの所、生き物のことなら私の所、と、そんなふうになっていたからです。今日はなかなか、と思っていると、子供たちは私を引っ張るようにして「おばちゃん、へびがいるよ」と階下の駐車場を指すのです。降りてみると、アスファルトの上に、確かに大きなへびがいます。「ジムグリ」と呼ぶへびでしょう。

「おばちゃん、どうしよう？」と子供たちはなんだか期待するような目で私を見ます。「どうにもしないよ」と私は答えました。大雨のせいで、そばの植え込みも水びたしで、側溝にはまだ雨水が流れ込んでいます。「さっきの雨で、おうちの中まで、ずぶぬれになっちゃったのかな、困って出てきたんだね」と言うと、子供たちは納得した様子でしゃがみこみ、へびを眺めはじめました。へびは、ななめに射した金の陽に輪郭を輝かせ、しごくのんびりと体を乾かし、やがて静かに植え込みに消えました。その時、へびを眺めながら、こんな話をしました。動物が他の種類の生き物を襲うのは食べるためか、自分や家族の身を守るためだけ、と。人間は、ただ「へびだから」なんていう理由でへびを殺したりするけれど、へびが、飲み込めつこない人間をわけなく襲うことはないのだと。人間の子供と、へびがすごしたのどかな夕暮れ。何年たっても、私はその時のことを忘れられません。もしもあの時、多くの大人がするように、へびを見て悲鳴を上げたり追っ払ったりしていたら、あの穏やかな時間はなかったでしょう。そして子供たちは、へびは、悲鳴を上げて追い払うものだと思うようになったかも知れません。子供たちは、あの後引越して散り散りになってしまったけれど、あの時のことを忘れてしまったかもしれないけれど、それでも、考え方のどこかにきつと残っていると、私は思うのです。あのへびは、子供に取り巻かれても逃げなかった。それは、敵意がないということ。「分かってあえた」から。人間と野生の生き物。一度きりの出会い。それでも、あの午後、私たちは同じように、暖かい夕日と一緒に楽しんだのです。